

日本国際情報学会
国際開発研究部会 2024年度 第1回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2024年度第1回研究報告会を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2024年(令和6年)6月22日(土) 15時00分～17時30分

3 開催会場

日本大学通信教育部1号館81講堂とZOOM(Web会議) ー同時開催ー

4 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

(1) 開会挨拶：日本大学大学通信教育部教授 **前野 高章**



本日の部会では、3名の発表を予定している。
質疑の時間では、各自の学問的な知見を活かして
活発な議論をお願いしたい。

(2) 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

司会者：幹事 齋藤 高志

第1報告 (15:05~15:45)

【Zoom参加】

報告者：田中 隆 金城大学総合経済学部講師

テーマ「地域産業集積の盛衰からの都市化の経済に関する一考察」



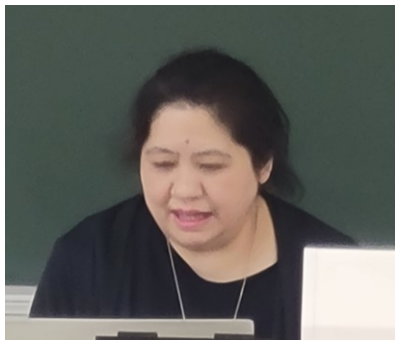
開発途上国の持続可能な都市の発展について、都市化の経済に関する外部性に着目し、福井県鯖江地区の眼鏡産業に関する地域特化の経済の盛衰を例に考察を行い、都市化の過程における正の外部性の発揮の重要性を示した。

第2報告 (15:50~16:40)

【対面】

報告者：芳崎 文香 日本国際情報学会国際開発研究部会

テーマ「社会人の学び直し機会がライフステージにもたらす効果についての一考察」



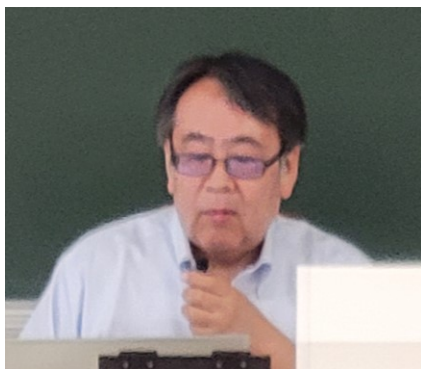
リカレント教育・リスキリングに着目し、それぞれの特徴を明らかにした。

その上で、社会人の学び直しにおける近年の傾向や目的を踏まえ、労働移動など労働市場に及ぶ効果の検証を今後の課題とした。

(1) 第3報告 (16:35~17:15) 【対面】

報告者： 菊地原 正彦 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「インドネシアにおける都市化問題に関する一考察」



ASEAN 地域の「郊外の都市化」の形成過程に着目し、先行研究の成果を踏まえ、インドネシアの大都市圏における都市形成要因の理論的枠組みについて考察した。結果、フラグメンテーション理論が「郊外の都市化」の形成過程にも影響を及ぼしていると指摘した。

(4) 閉会挨拶：陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授



部会は、皆様の参加と高い関心により成り立つと考える。学会活動は、学問的な情報発信に活動を限定している。学問的利用以外は控えてほしい。当部会でも、学会の全体情報発信と連携し独自の発信を検討したい。部会活動に関しては、部会長又は幹事に相談してほしい。そうしたルールをご理解のうえで盛り上げてほしいと思っている。一層の協力・参加をお願いしたい。

5 参加者

20名 (会場11名、ZOOM9名) ※途中入退室あり

